

『ぼくのくれよん』を書評漫才で

A・B：どうも一、「〇〇〇（コンビ名）」で一す。よろしくお願ひしまーす。

A：今日は講談社(こうだんしゃ)から出版された絵本を1冊紹介したいと思います。

B：いきなりやね。本のタイトルは？

A：『ぼくのくれよん』です。

B：それ、ぼくにくれよん。

A：「ぼくに」じゃなくて、「ぼくの」です。

B：「ぼくに」じゃなくて、「オレに」じゃアカンかな？

A：余計アカンわ。それで、お話と絵が長新太(ちょう しんた)さんです。

B：(Aのお腹に聴診器(ちょうしんき)を当てるフリをして) さあー、息を吸って一、さあ、吐いて一。

A：それは聴診器。似てますけど、そんな名前の方は居てません。

B：そうかあ、そしたら長さんは他にどんな本を書いてんの？

A：『キャベツくん』とかですね。

B：(Aの「とか…」の所と重なる感じで…) それってめっちゃ有名やんか。そしたら『ぼくのくれよん』も面白いんかなあ。どんな話？

A：くれよんが出てくるんですが…。

B：表紙にあるのは箱に入って7色やね。ちなみにぼくのは12色。イエーッ、勝ったあ！

A：色の数じゃなくて、大ききで勝負してください。

B：どれどれ(ページをめくる)。どわー、なんやねんこれ。ハンパない大ききやで。ネコが乗ってる。

A：これは、

B：これは？

A：(怪談の語り風に…) これはゾウのクレヨンなのです。

B：きゃーっ！

A：驚くのはいいですけど、怖い話じゃないですから。ゾウが大きなクレヨンで描いた絵で、周りの動物たちが驚かされる話です。最初は青いクレヨンで…

B：サムライブルー！

A：おっ、ワールドカップモードですね。次は赤いクレヨンで…

B：赤はスペインか。エスパニョ〜ル！

A：ポルトガルも赤ですね。その次は黄色いクレヨンで…

B：黄色って言ったら、ブラジィ〜ル。ネイマール、ゴゴゴゴゴォール!!

A：サッカーの話はもういいです。

B：そしたらゾウが描いた絵が何か当てるで。うーん。出てくる色からすると、青、赤、黄色って信号か？「ピッ、ピッ、赤信号です。君たち止まりなさい。」って言われて驚く

とか…

A：違います。

B：早っ、即答やな。そしたら正解は？

A：青いクレヨンで、池を描くんです。

B：まあ、普通やね。

A：それが、ゾウが張り切って描くもんですから、ハンパない大きさなんですよ。なんと、本物の池と間違えて、カエルが飛び込んでしまいます。

B：そんなアホな！そしたら、赤と黄色はどないなんねん？

A：それは読んでのお楽しみです。

B：うわーっ、ごっつ気になるやん。その本、ぼくにくれよん。

A：最後まで引っ張りますね。ええかげんにせえ。

A・B：どうもありがとうございましたー。